

# 文字摺通信

第 110 号  
2026年 4月15日  
発行:文字摺歴史文化社

## 『蚕種銘鑑』に登載の蚕種商人は？

文字摺古文書勉強会のテキストに『蚕種銘鑑』の「自序」を使用しました。『蚕種銘鑑』は梁川の中井閑民が文久元年に出版しました。蚕種は、購入者は翌年に掃き立てをしないとその孵化率はわからず、孵化した蚕が繭をつくってみなければその種が優良種かどうか分かりません。ですから、蚕種商人と養蚕農家の信用が大事になるのです。だから、悪い種を売りつける悪徳商人がでてくるのです。そこで中井閑民は、優良蠶種銘柄とそれを生産・販売する蠶種商人を村ごとに列挙した『蚕種銘鑑』を出版したのです。

右下の例のように、上に優良蠶種銘柄の商標を書き、その下に蚕種商人を書いています。本では、全国の蚕種商人名が書かれていますが、信達の商人名を書き上げてみました。次ページの表です。信達だけで248人の蚕種商人が載っていますが、その95%の236人が伊達郡の村々の商人です。一番多いのが梁川の58人、次いで栗野村の30人、伏黒村の27人、二ノ袋村の21人と続き、5番目に伊達崎村と掛田村が12人で挙げられています。前号で本場銘の村は阿武隈川流域にあるが、掛田だけがポツンと離れているのは？と書きました。その掛田には12人も優良蚕種商人がおり、各自優良銘柄を売り出しているのです。では、掛田の蚕種商人は、地元の蚕で産卵させているのか、阿武隈川流域から蚕を購入してきて、産卵させているのか、そうしたことに踏み込んだ調査が必要ではないかと思われれます。



石蠶	越権	中忠	鈴勘	中身	金蚕
三浦助四郎	越後屋権太郎	中村屋忠兵衛	鈴木勘之丞	大間屋甚衛門	紙屋太治兵衛
中善	角平	岡忠	極撰	建業	佐甚
中村屋善吉	角屋平治郎	岡村屋忠吉	額田屋仙助	紙屋幸助	佐藤屋甚衛門

文久元年(1861)信達二郡村ごと蚕種商数

梁川	58	舟生村	6	湯野村	2	福島※	1	板谷内	1
栗野村	30	西大枝村	6	新田	2	烏渡※	1	飯田	1
伏黒村	27	岡村	6	関波村	2	月館	1	荒井※	1
二ノ袋村	21	東大枝村	4	郷ノ目※	2	塚ノ目	1	山戸田	1
伊達崎村	12	箱崎村	4	泉村※	2	白根	1	柳田	1
掛田	12	桑折駅	4			北原	1	八島田※	1
中瀬村	9	保原	3			鎌田※	1	藤田	1
五十沢村	7	塚原村	3			小幡	1	※印は信夫郡	
上郡	7	瀬ノ上駅※	3			上大笹生※	1	の村	